

## 集められた災害に関する情報のまとめと我々の主張

2017年2月16日

半田病院のあり方を再考する会 浅野 周一

- ✓ 東南海トラフ地震では、知多半島全域で 5000 人規模の重傷者が生じると見込まれている。最悪で死者 30 万人以上が生じるという想定もあり、広域搬送にも限界がある。中核災害拠点病院である半田病院が果たす役割は非常に重い。
  - ✓ 職員駐車場は周囲よりも強い揺れが予想され、液状化の危険性が非常に高い軟弱地盤上にある。液状化によりアクセスが数日以上遮断される可能性があるが「半田市立半田病院あり方検討委員会」の答申に求められている液状化対策が行われる予定はない。
  - ✓ 高潮津波想定図によると、過去最大規模の台風に対しては堤防が決壊しない場合であっても、職員駐車場周囲一帯の浸水、アクセスの途絶が予想されている。堤防が決壊した場合、長期にわたり病院機能が麻痺する可能性がある
  - ✓ 職員駐車場は津波避難対象地域内にあり、地震発生時に患者搬送、職員参集が長期間不可能となることが予想される。津波警報発令時には 1 階にいる外来患者を高層階に避難させる必要もあり、発災直後の貴重な時間に病院機能を発揮することができない。
  - ✓ 職員駐車場は敷地が狭く、交通の便も悪い。平時の利便性においても問題がある。
- ⇒ 以上より、半田市職員駐車場は新半田病院の移転候補地として不適であると考える。